※令和４年度以降入学生用

学校番号	１２０７

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（学）基礎からの社会	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	―						
副教材等	自校作成プリント、社会入門「東京書籍」						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

エンパワメントスクールの共通科目として、小学校３年程度から中学校３年までの社会（地理分野・歴史分野・公民分野）についての身近な事例を教材として提示し、ICT の活用やグループ活動などの展開によって確認を、興味を高めたり内容を確認したりし、高校の各教科への円滑な引継ぎを図る。

２　学習の到達目標

①社会に関するニュースや記事に興味が持てる
②小中学校の社会科の内容を理解している
③次年度以降に履修する「公共」「歴史総合」「地理総合」を学ぶ上での基礎知識を獲得する

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	○社会の様々な事象や現代的諸課題の分析・考察に必要とされる基礎的知識（用語･地名など）や基本的概念（歴史、環境、地域）を身に付けている。 ○学習に必要とされる様々な資料を収集し、それらを的確に取捨選択し、調査・分析することができる。	○社会の様々な事象を分析・考察・解釈し、学習の中で得た気付きや社会の規則性をもとに、現代世界が抱える諸課題の現状を発見することができる。 ○現代的諸課題について、その背景・要因・解決策を多方面から追究し、環境・人権・平和の観点からより良い社会のあり方を模索することができる。	○社会（地理分野･歴史分野・公民分野）に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活の身近な事例に位置づけ、結びつけることができる。 ○社会分野を学ぶことの意義を積極的に見出し、そこで得た知識・技能・態度を社会生活、ないしは現代的諸課題の解決に生かすことができる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
４月～７月	日本地理	・身近な地域の地理 ・47 都道府県の位置 ・日本の主な山地・河川等の地形	a: 身近な地域から日本の都道府県、アジア・南北アメリカなど主要な国について理解している。 b: 世界の主な国の位置がかける。様々な地域の暮らしを知り、積極的に情報収集することができる。 c: 地理的な興味関心を持って、積極的にグループ活動などに取り組んでいる。	定期考査 授業 プリント	定期考査 授業 プリント	授業 プリント
	世界地理	・アジア・南北アメリカなど主要な国を知る ・世界の主な国の位置関係				
８月～１２月	日本の歴史	・古代・中世・近世・近現代といった時代区分 ・各時代の特徴的な人物、文化財等について	a:各時代の特徴的な人物、文化財等について理解し、我が国の歴史区分や歴史上の偉人について理解している。 b:日本の歴史の大きな流れがわかり、人物を通して歴史をストーリーとして楽しめる。 c:歴史上の人物を通じて社会の変化に興味を持ち、グループ活動などに積極的に取り組んでいる。	定期考査 授業 プリント	定期考査 授業 プリント	授業 プリント
	世界の歴史	・我が国との関係と世界のおおまかな歴史				
１月～３月	政治分野	・法的な物の見方、考え方 ・裁判員裁判について理解することができる。	a: 裁判員制度や経済活動などの理解を通して、政治的経済的教養を身につけようとしている b: 政治制度や株式会社及び金融の働きについて理解して、社会活動について考えることができる。 c:将来の自立した生活に関心を持ち、経済的な教養を身につけようとしている。	定期考査 授業 プリント	定期考査 授業 プリント	授業 プリント
	経済分野	・身近な消費生活 ・家計・企業活動・財政活動の相互関係 ・株式会社や金融の働き				

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度